

台風や地震災害の被災者の方々の様子を見て、以前お訪ねした、防災の工夫が盛りだくさんの小さな公園を思い出した。

そこは板橋区が緑の施策のひとつとして、住民と案を練りながらつくった広さ1460㎡という小さな公園。できた後も里親制度で管理してもらっているという。道に面した角地にあるその公園は、大きなけやきの木2本とベンチがあり、周りに花壇があるものの、真ん中は何も無いコンクリートが目立つ公園だ。また端にはトイレと管

かまどベンチ



ベンチの利用



ベンチがかまど!

理詰め所があって、掃除用具置き場だけでなく、人々が寄り合えるように小さなキッチンがあり、テーブルなどが置かれていた。近所に住む管理グループの人々に話を聞くと、区から話きて、何度も話し合いみんなの希望やアイデアを取り入れていったら結果としてこういうかたちになったのだという。「せっかく作るなら防災機能をもたせたいよね。それにコンサートやイベントもしたいし!じゃあ雨にぬかるまないようにコンクリートにしようかということになってね、それと、多くの人が集まれるようにするには広いほうがいいよね!ということで、昔からある2本のけやき以外には物を置かないようにしたんです。でも折角の公園だから花も欲しいわね、園芸が好きな人もいるし、ということで周りは花壇。ほら里山風でしょ?これ我家から持ってきた花ですよ!実家から持ってきた木もあるのよ!でもね。それ以上にみて欲しいのはこのベンチ!」と自慢そうにおっしゃった。それは石の土台に細長い木がわたしてあるシンプルなベンチで、なにがいいのかわからないでいると、ニコニコ笑ってこういったのだ!「これはね、いざ



という時に竈になるベンチなんですよ!板をはずすと石と石の間にドラム缶がすっぽり入るようになっていてすぐに使えるの。燃やすものはなんとかなるからこれがあれば当面は凌げるでしょ!慣れておいたほうがいいのかから今もイベントの時は竈にして使っているんだけど、楽しいですよ!あとは水も必要だということでこの下には100tの防火水槽も作ってあるんです。井戸もあるよ!普段は使ってないけれど、この棒を取り付ければすぐに水がでるようになっているんだ。やってみましょ

けやきの公園の花



うか。」とギコギコ水をだしてくれた。それだけではない。その水が流れる先はなんと簡易トイレになっていて、マンホールをはずすと埋め込み式の水洗トイレが水の流れに沿って三つ!これだけあればどれだけ安心なことだろう。住民がアイデアを出し合えばこんなユニークな設計になるのだと感心してしまった。「いいでしょ!ここは私たちの大事な場所だから掃除だって率先

してするし、蛇口から水が漏れたって、器用な仲間を呼んで直しちゃうのよ!怪しい人がいたら仲間をよんで追出しちゃうから不良のたまり場にもならないわ!」と誇らしげに笑っていたらした。

美しいデザインの公園もいいけれど、こういう使い手の希望をかなえた機能優先の公園は日頃の管理だけでなく、有事の時に大きな力を発揮することだろう。我家のそばにも、こんな公園が欲しい!

すま かつえ/キャスター。NHKアナウンサーを経てフリーに。「趣味の園芸」などの番組を担当するとともに、全国の花や緑をめぐる市民の活動を取材している。

けやきの公園



けやきの公園詰所とトイレ



けやきの公園の周囲花壇



棒をつけると井戸になる



埋め込み式水洗トイレ

